

令和5年度第3回学校運営協議会 議事録

○日時：令和6年3月12日（火） 13：30～15：00

○場所：掛合分校音楽室

○出席者：学校運営協議会委員 7名（※50音順による 敬称略）

飯塚 真(掛合分校同窓会長), 石橋 淳子(社会福祉法人仁寿会医務室長), 小川 真里(掛合町文化協会事務局), 芝原 大助(掛合分校PTA会長), 白築 敏彦(掛合自治振興会事務局長), 難波 順子(雲南市立掛合中学校長), 松村 知子(掛合保育所職員),
学校関係者 2名
本間 達也(学校長), 伊藤 尚子(副校長)

○協議内容等（概要）

- (1) 令和5年度学校現況報告
- (2) 令和5年度学校関係者評価
- (3) 令和6年度の学校経営に向けて

【各委員からの評価コメント】

- ・探究学習等は自己肯定感の引き上げや将来の進路選択につながるものであり、掛合分校の特長の一つである。引き続き丁寧な取組をつつけて行けたらよい。
- ・小中との授業交流をしながらお互いに ICT 機器活用や授業改善等が進んでいくとよい。
- ・図書館活用については生徒の評価は高い。司書教諭の存在も大きいのではないかと感じる。掛合の交流センターにも図書館活用もできるのではないかと。
- ・挨拶やマナーなどは社会に出てから必要なものなので、家庭と協力しながら指導を続けてほしい。
- ・部活動の活性化に向けて、体育館が使えない状況で苦しいと思うが、我々も地域から体育館施設への要望等を行っているが、引き続き市や関係機関へ働き掛けていく。
- ・悩みを相談できる体制など保護者に向けてうまくアピールできるとよい。
- ・総合的な探究の取組の中で、自分たちの考えが実現できていくのはすごいことだと保護者同士でも話題になった。手厚くやってもらっていることは分校のアピールの一つになる。
- ・営農などの他にも掛合の地元企業（酒造）などもあるので、そのあたりとも何か連携協力などができていくといいのではないかと。
- ・小さい学校だからこそできる教育もある。1年生の時できなかったことが3年生ではできるようになり、自信をつけて巣立っていく、それが素晴らしいことであり、喜ばしいことである。先生方ととも生徒の成長が自信になっている。教職員のサポートもあっての自己実現ができていく。
- ・評価全体を見ると、一部に偏った評価ではなく、平均的な評価が出ているというのがポイント。生徒が多様な進路に進む中、広く必要なことに網羅して取り組んでいる。平均的にまんべんなく高校の時に身に付けておくものは社会人になってからのキャリアアップなどで役立つものと考えている。
- ・大規模校では埋もれてしまいがちな生徒たちも、意見を言ったり、アイデアを出し合ったりと、それぞれに役割を持たせて取り組めるのは小さな学校の良さ。
- ・SNS への向き合い方など学校でも引き続きうまく付き合っていく工夫と指導が必要。